

北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

北見市は北海道の東部に位置しているオホーツク圏最大の都市であり、面積は1,427.56km²、北海道では第1位、全国では第4位の広さである。また、街並みは西側や北側には大型商業施設や病院等が建ち並び、東側には東陵運動公園や大学等が建ち並んでいる状況である。

バス路線については、バスターミナルを中心に放射線状に運行されているが、夕陽ヶ丘通りを東西に結ぶ路線がなかったことから、交通空白地帯の解消や住民要望の改善を図るために、「夕陽ヶ丘線」運行の維持確保が必要となっている。

北見市生活交通ネットワーク計画の目標

試験運行時の1日の乗車人数の増加を目指す。

試験運行時の1日の乗車人数 222人

平成25年度の1日の乗車人数(目標) 392人

平成25年度事業概要

●夕陽ヶ丘線(小泉8号—西8号線—小泉8号)

経路は、小泉8号を始発とし、日赤病院を廻り、夕陽ヶ丘8号線まで行き、国道を経由する片廻循環となり、再び夕陽ヶ丘6号線に戻ってから、往路を反対に運行する路線となっている。経路には、大型商業施設、医療施設等も含まれており、通称、買い物バスとして運行した。

地域公共交通の現況

- ・JR石北線(北見駅他10駅)
- ・民間路線バス(28路線)
- ・スクールバス(11路線)
- ・都市間バス(3路線)

北見市地域公共交通会議開催状況

- 6月22日 第1回会議を開催
 - ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について
 - ・北見市新交通システム実証運行計画策定及び公共交通利用促進策策定について
- 7月19日 第2回会議を開催
 - ・津別町営バス廃止に伴う新路線バスの運行について
 - ・バス路線「温根湯線」「厚和線」の運行経路の変更について
 - ・新しい交通システムについて
- 10月17日 第3回会議を開催
 - ・新しい交通システム導入に向けた実証運行について
 - ・北見市における公共交通利用促進策について
- 1月21日 第4回会議を開催
 - ・川東・若松地域のコミュニティバスの運行状況について
 - ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について
- 2月26日 第5回会議を開催
 - ・北見市公共交通マップについて
 - ・川東・若松地域コミュニティバスの運行について

平成25年度事業の実施状況

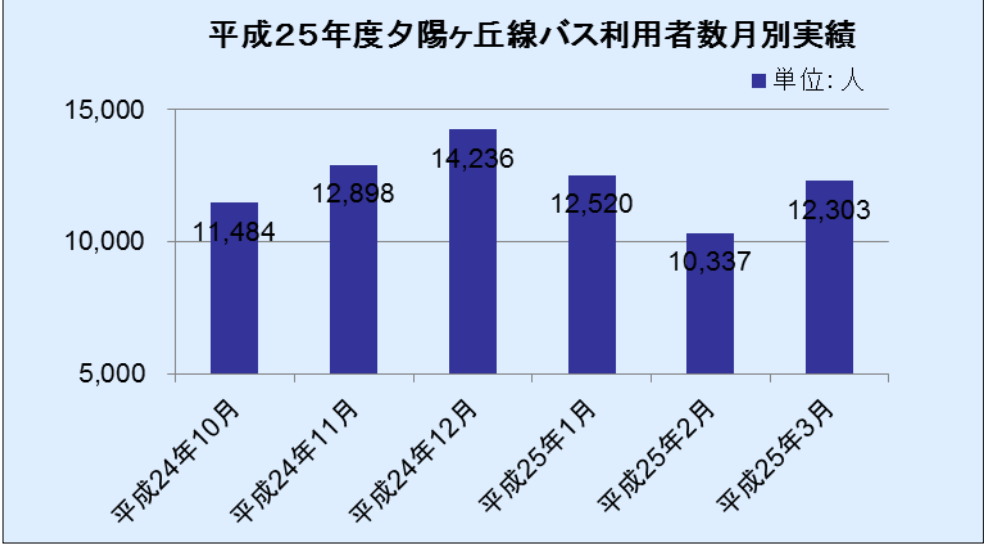
1) プロセス、創意工夫

北見市の公共交通利用促進策の一環として、北見地域公共交通会議幹事会などで協議を重ね、北見市交通マップを作成した。
 その他、北見市地域公共交通計画に基づき、路線の見直しや新しい交通システムの導入、公共交通の利用促進策等に取り組んでいる。

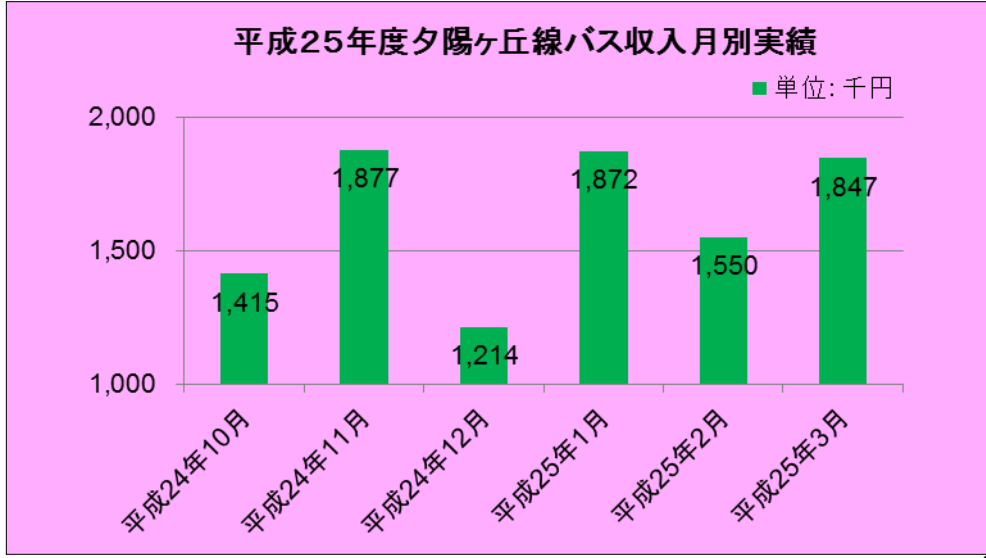
2) 運行ルート



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

計画どおりの運行を行い、目標392人／日に対して408人／日であった。運行期間が10月から3月の冬季期間であり、自転車等の利用ができないことから、目標を上回ったものの、夏季期間については、自転車等の利用が可能となることから、利用者数が減るものと予想される。

7) 事業の今後の改善点

冬季期間に比べ夏季期間における利用者が著しく減少することから、積極的な利用促進を展開する。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。今後は、夏季における利用者の減少を食い止めるため、北見市交通マップを活用するなど、周知・広報活動を積極的に展開して、新たな利用者掘り起こしとバス利用者に対する割引等の近隣商業施設と連携した利用促進策の検討・調整を期待する。